

2025年3月期 中間期決算説明会

2024年11月19日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔届ける

本日のアジェンダとスピーカー

01_会社概要とコア事業の特徴

02_中間期決算概要

03_各事業の取組み



代表取締役社長
庄司 英洋



取締役常務執行役員
窪田 和男

01_会社概要とコア事業の特徴

02_中間期決算概要

03_各事業の取組み

フィード・ワングループとは

『飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔届ける』をパーパスに掲げ、安心安全な配合飼料を製造し豊かで健康な社会づくりに貢献する

事業内容 ～配合飼料の製造販売を核とした事業展開で海外にも進出～

畜産飼料事業

牛・豚・鶏などの家畜に向けた配合飼料の製造販売や、畜産技術やDX推進に向けた畜産経営のトータルコンサルティングサポート

水産飼料事業

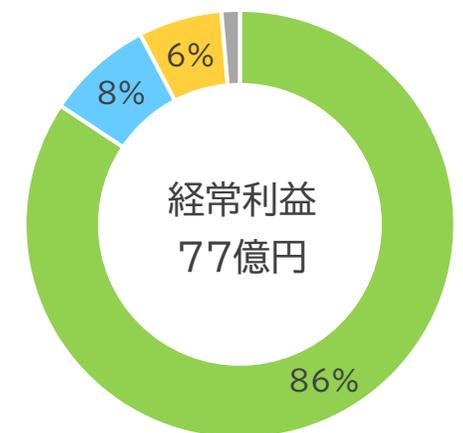
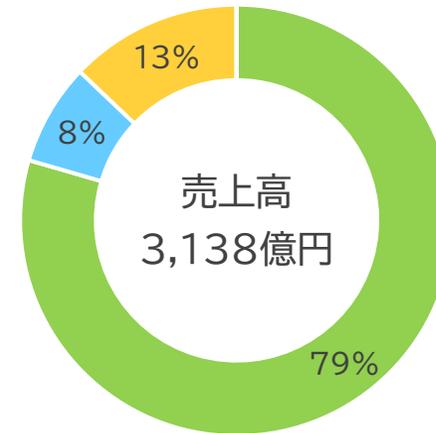
ブリ・マダイ・カンパチなどの養殖魚に向けた配合飼料の製造販売
養殖業の持続的発展に向けた無魚粉飼料の販売や飼養技術の確立

食品事業

当社製品で生産された豚肉・鶏卵の販売を通じて生産者の経営をサポート

2024.3期決算 ～コア事業である畜産飼料事業が約8割を占める～

- 畜産飼料事業
- 水産飼料事業
- 食品事業
- その他



注) グラフの比率は調整額を除いて作図しております

マテリアリティ ～環境問題の深刻化や地政学リスクの高まり等の事業変化に対応したマテリアリティを新たに策定～



「おいしさのみなもと」から
食のサプライチェーンを支える

安心安全な飼料と食品の安定供給を通じて、
日本の食生活を支えます



飼料を通じて
環境と社会の調和を図る

資源循環型社会の実現を目指すとともに、
気候変動、生物多様性に対する取り組みを推進します



人々の豊かな暮らしに
貢献する

畜水産業界の発展に貢献し、人々の持続
可能な豊かな暮らしづくりに貢献します



食の未来を創る人材を
育成する

誰でも活躍できる環境をつくるとともに、
新たな価値を創造する人材を育成します



社会から信頼される
組織をつくる

社員一人ひとりが高い倫理観を持ち
ガバナンスを強化します

配合飼料は輸入原料の価格変動のインパクトが大きく、売上高や売上原価、販管費に大きく影響を及ぼす

【売上高】 輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し P15

- ・ 四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われる
- ・ 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため業績の指標にならない

【売上原価】 売上原価の9割を原料費が占める

- ・ 売上原価に占める原料費は9割を超える
- ・ そのうち8割以上が輸入原料となるため、その価格変動は売上原価に直結する

【販管費】 配合飼料価格安定制度積立金を計上 P12

- ・ 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度
- ・ 国、配合飼料メーカー、生産者が補填基金を積み立てており、発動条件を満たした際に生産者に補填金が支払われる
- ・ 積立金は販管費に計上している。当中間期は**3,286**百万円を拠出

輸入原料が8割以上^(※)を占める

配合飼料はとうもろこしや大豆油かすといった輸入原料が大半を占め、中でもとうもろこしの割合は大きく、主産地であるアメリカやブラジルの相場はもちろん、為替や海上運賃の影響を大きく受ける

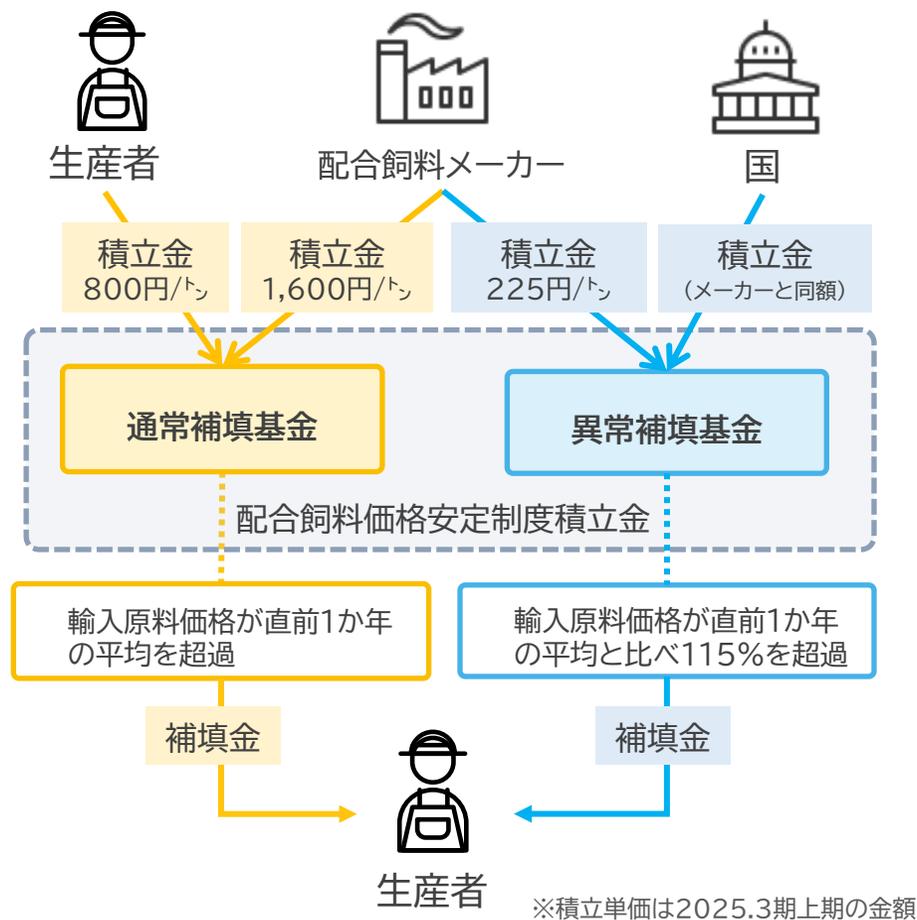


※農林水産省「飼料をめぐる情勢」令和5年11月 から引用

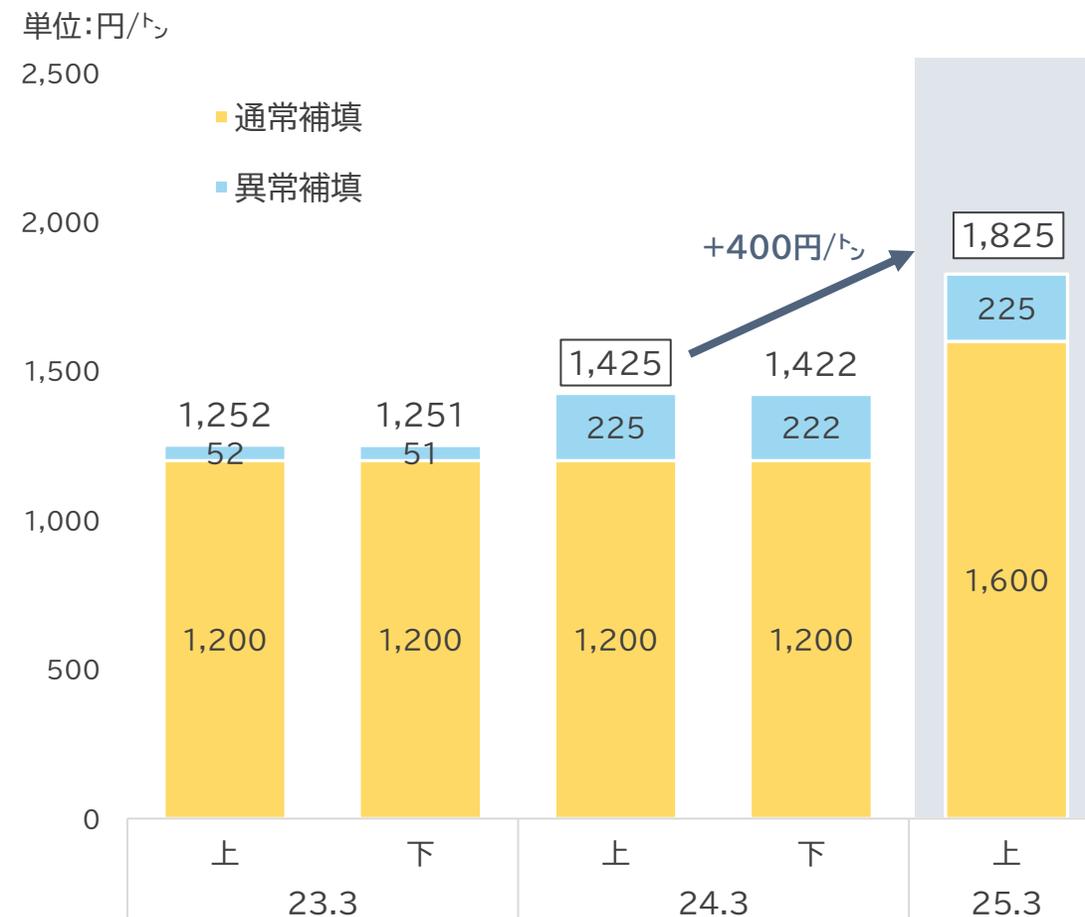
[参考] 配合飼料価格安定制度積立金

輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度

制度の仕組み



積立金推移(配合飼料メーカー)



高い市場競争力と、リスクヘッジの効いた販売構成が大きな強み

市場競争力

原料購買～販売まで確かな技術力



－ 主原料購買力

株主である三井物産(株)との連携により仕入の安定性が担保されている



－ 全国に展開する製造拠点

全国13工場の生産拠点を有し、全国の顧客をカバー



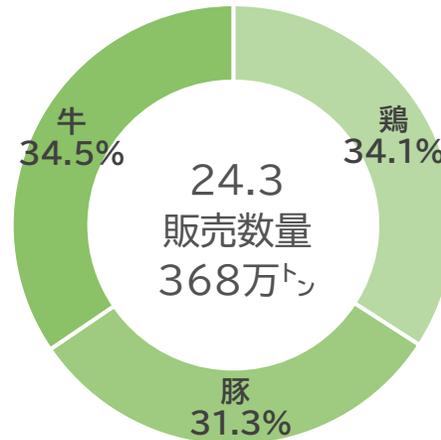
－ 従業員の技術力

畜種毎の専門性を深化させており、その道のプロフェッショナルが顧客対応している

また、国内3か所の研究所をベースに、国内大学・研究機関に加え、アメリカの大学等とも提携

偏りのない販売

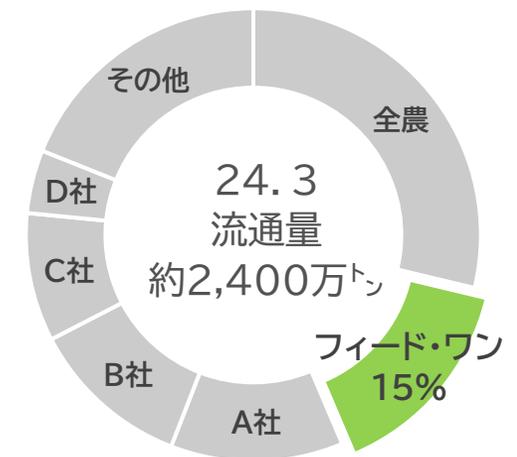
鶏・豚・牛の販売構成比がほぼ均等



家畜伝染病等による影響を最小限に抑えることができるバランスのとれた畜種構成を特長とする

市場占有率

民間企業でNo.1



市場は横ばいで推移するなかで、毎年販売数量を伸ばし、10年間で40万ト以上拡売し、シェアを13%から15%に伸長

『「ONE」にこだわり、選ばれる企業へ』のVisionのもと持続的な成長へ

01_会社概要とコア事業の特徴

02_中間期決算概要

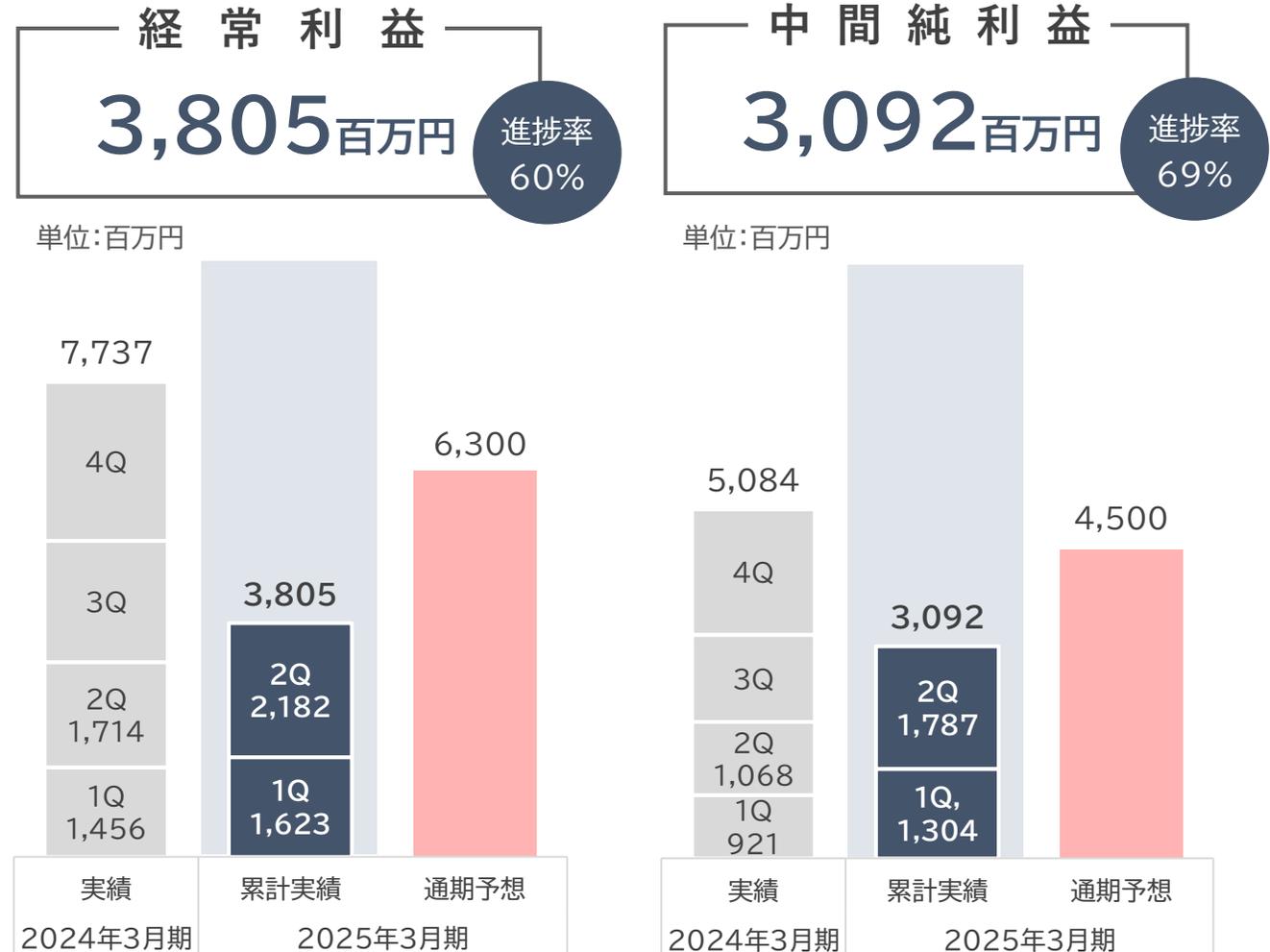
03_各事業の取組み

当中間期 連結決算概要

畜産飼料の価格改定(販売価格低下)により減収。畜産飼料の販売数量増加や売上原価改善により増益

単位:百万円

	2024.3期	2025.3期		
	2Q	2Q	前年同期比	通期業績 予想進捗率
売上高	156,645	148,298	▲5.3%	48.3%
売上原価	142,821	132,154	▲7.5%	-
売上総利益	13,824	16,143	+16.8%	50.8%
販管費	10,980	12,787	+16.5%	-
営業利益	2,844	3,355	+18.0%	55.0%
経常利益	3,171	3,805	+20.0%	60.4%
親会社株主に帰属 する中間純利益	1,989	3,092	+55.4%	68.7%

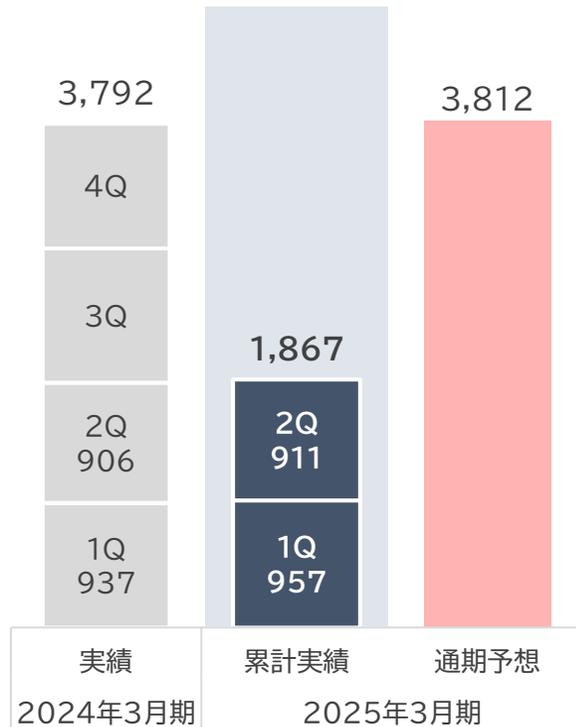


KPI進捗状況

持続的な成長と資本コスト経営を意識し、販売数量、総投資額、EBITDA、ROIC、ROEをKPIに設定

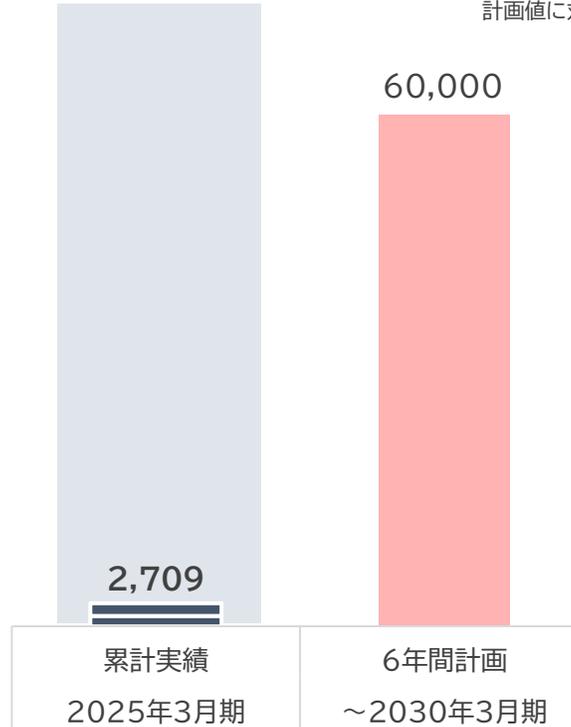


単位:千トン

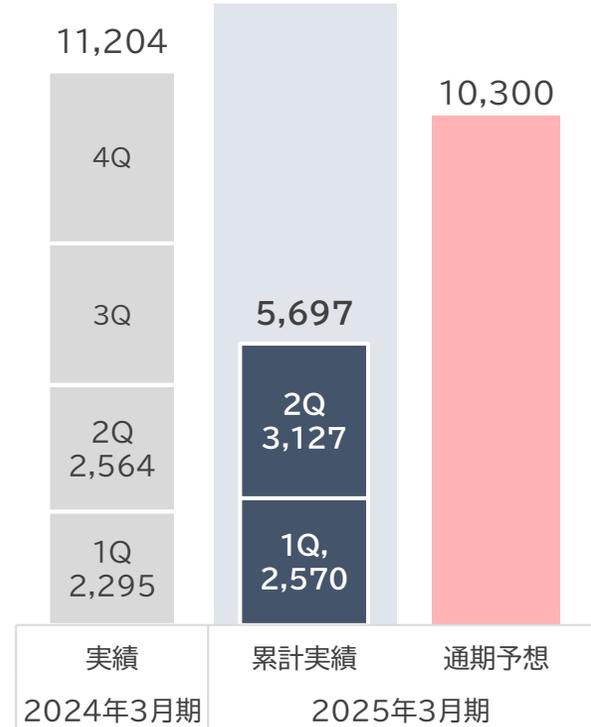


単位:百万円

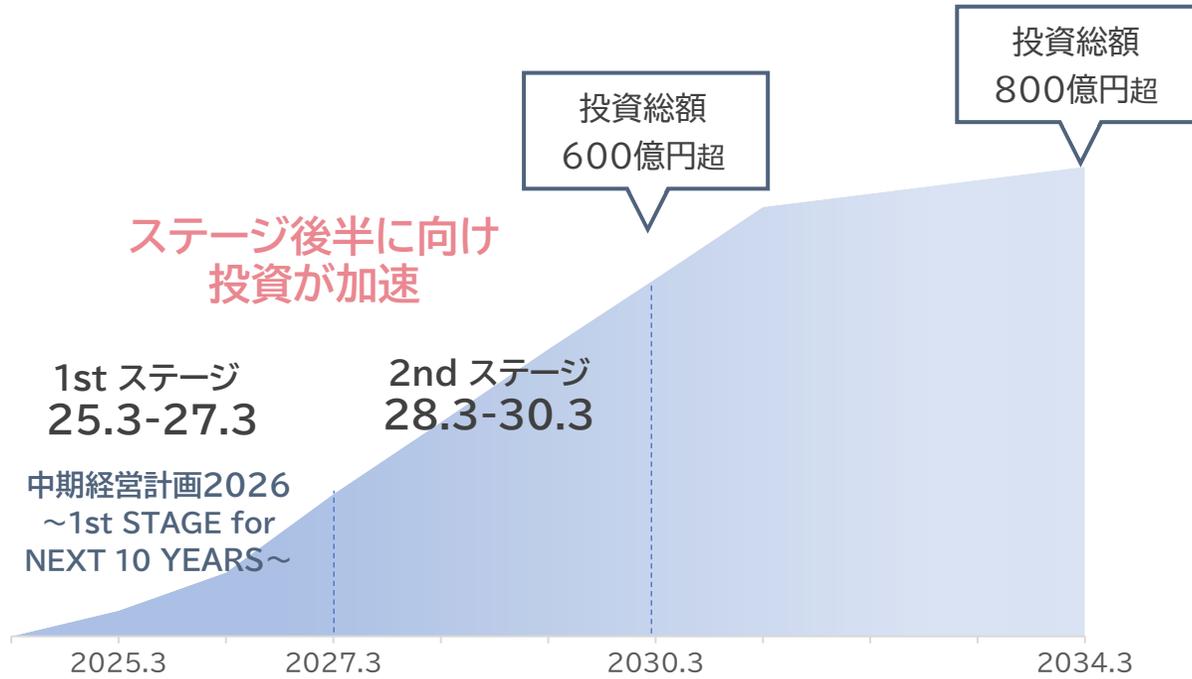
※2030.3期までの
計画値に対する進捗



単位:百万円



1stステージは投資に向けた準備段階、2ndステージにかけて集中する



2025年3月期 当中間期の主な投資内容

- ▶ 北九州畜産工場
-ペレット(※)ラインの増設 (27.3期上期完成見込)
- ▶ マジックパール株式会社
-増産のため新工場を建設 (25.3期下期完成見込)
建て替え後は生産能力150%
- ▶ 有限会社グリーンファームソーゴ
-洗卵選別機の更新やGPセンター(※)の増改築 (完成済)



※ペレット:
粉碎した原料に蒸気を
加え加圧成形したもの

※GPセンター: グレーディング・アンド・パッキングセンターの略で、鶏卵の格付け(選別)包装施設のこと

投資方針

- ・飼料製造設備
- ・食品加工設備
- ・R&D設備刷新・増強

- ・人財(人的投資)
- ・畜水産DX
- ・R&D
- ・海外

1st・2ndステージの
6年間で
600億円程度

BSマネジメント方針

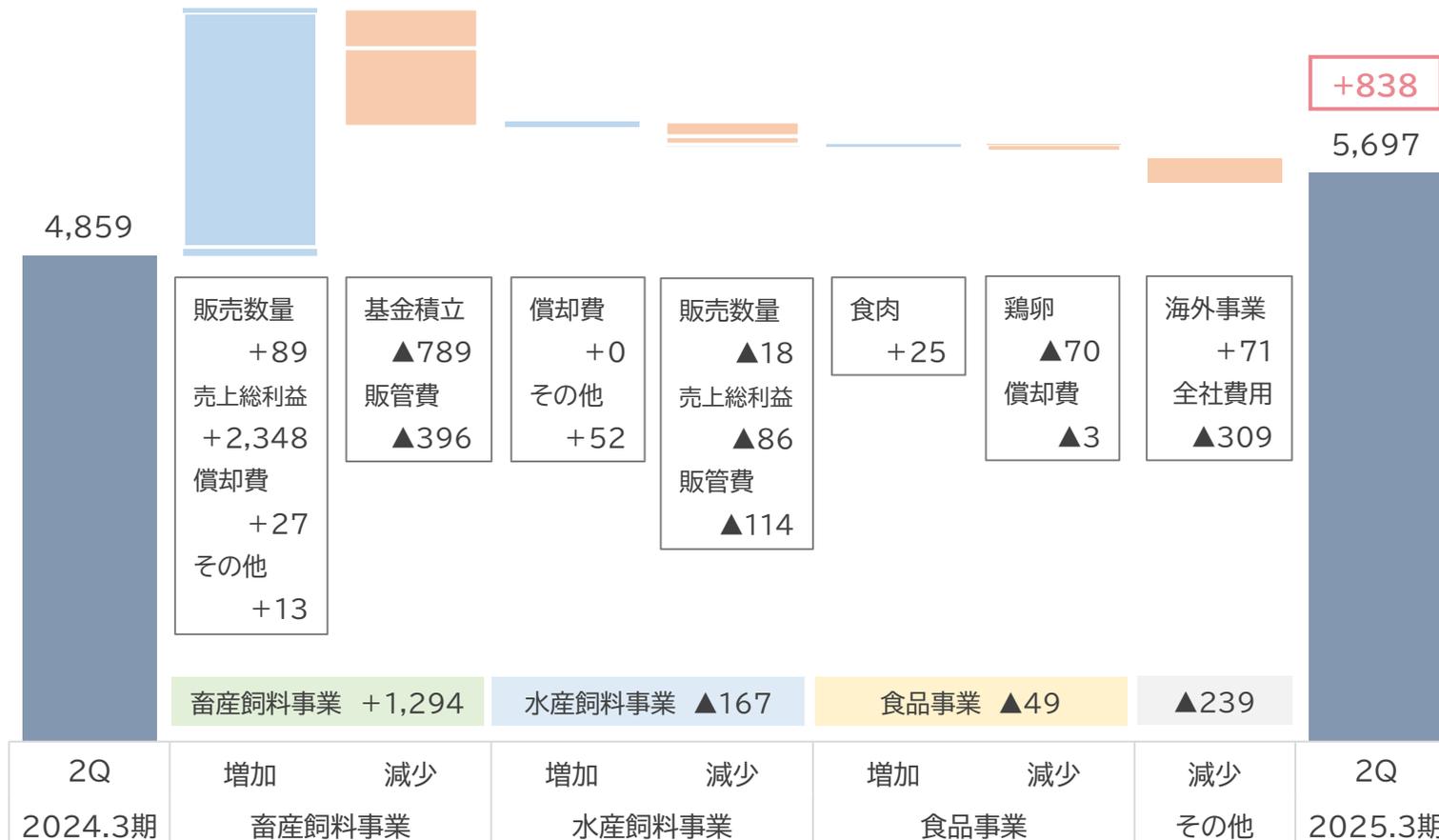
- ・必要な資金の大部分は営業キャッシュフローでまかない、有利子負債はDER等の財務規律を保ちながら調達する
- ・CCCの改善や保有資産の最適化により、資産効率を向上させる

EBITDA増減要因

販管費が増加するも、畜産飼料事業の売上総利益増加により前年同期比+17.2%増加

単位:百万円

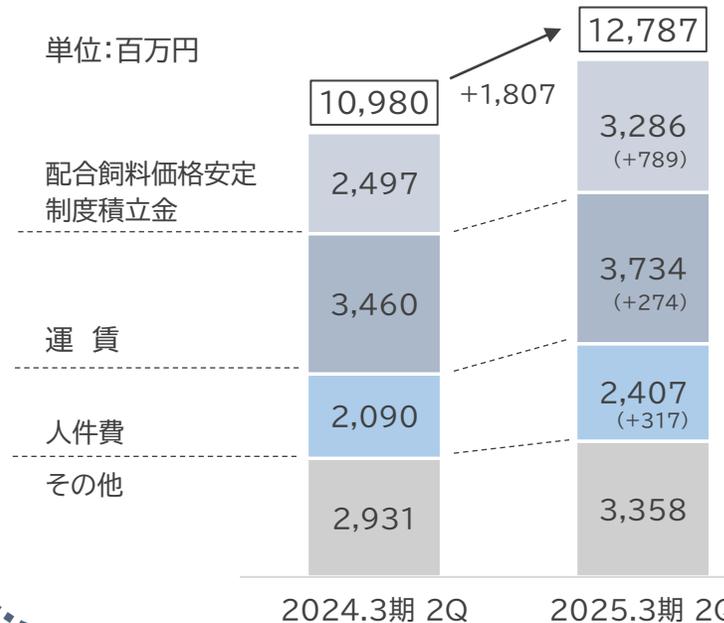
■ 増加 ■ 減少



販管費

- 配合飼料価格安定制度の積立単価が増加(+400円/ト)
- 運賃は販売数量増加や単価上昇により増加
- 人件費は給与水準の引き上げにより増加
- その他は新基幹システム導入による減価償却費増加等

単位:百万円



当中間期 連結財務状況

順調な業績により2,998百万円のフリーキャッシュフローを創出

連結貸借対照表

単位:百万円

()内の数値は2024年3月期末との差

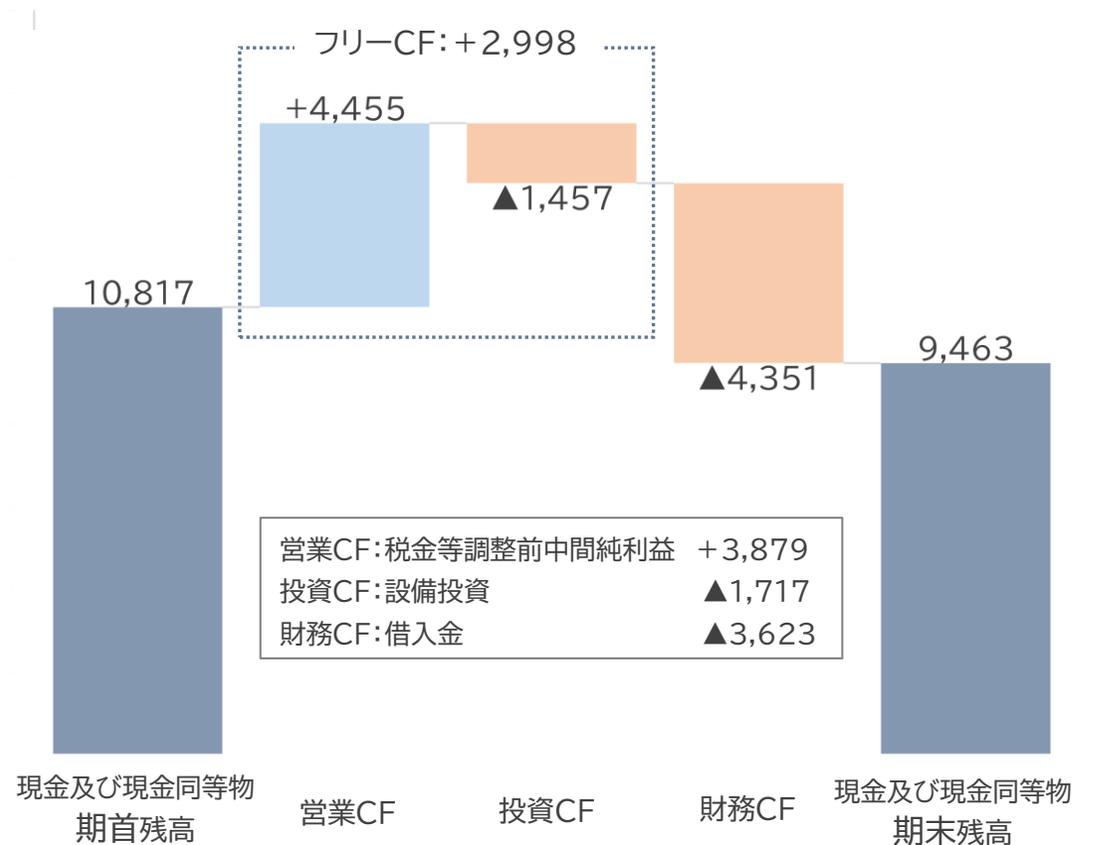
流動資産 80,719(▲7,484)	流動負債 52,162(▲2,959)
現金及び預金 9,534 (▲1,342)	支払手形及び買掛金 29,963(▲4,397)
受取手形及び売掛金 45,294 (▲6,534)	短期借入金 12,798 (+2,218)
棚卸資産 18,994 (+1,688)	未払法人税等 1,118 (▲1,144)
固定資産 43,589(+755)	固定負債 18,887(▲6,173)
有形固定資産 30,934(+752)	長期借入金 15,345(▲5,833)
投資その他の資産 10,971(▲138)	純資産 53,260(+2,403)

総資産 124,309(▲6,729) 自己資本比率42.3%(+3.9ppt)

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

■ 増加 ■ 減少



セグメント別業績

水産飼料事業、食品事業でセグメント利益は前年同期を下回るも、畜産飼料では前年同期比+34.5%と大きく伸長

単位:百万円

セグメント	2024.3期 2Q	2025.3期 2Q			
		増減額	前年同期比		
畜産飼料	売上高	122,698	116,275	▲6,422	▲5.2%
	セグメント利益	3,675	4,941	+1,266	+34.5%
	EBITDA	4,903	6,198	+1,294	+26.4%
水産飼料	売上高	12,924	13,533	+608	+4.7%
	セグメント利益	612	444	▲167	▲27.3%
	EBITDA	862	694	▲167	▲19.4%
食品	売上高	21,017	18,482	▲2,535	▲12.1%
	セグメント利益	65	19	▲45	▲69.9%
	EBITDA	149	100	▲49	▲32.7%
その他/調整額	売上高	4	6	+2	+42.8%
	セグメント利益	▲1,181	▲1,600	▲419	—

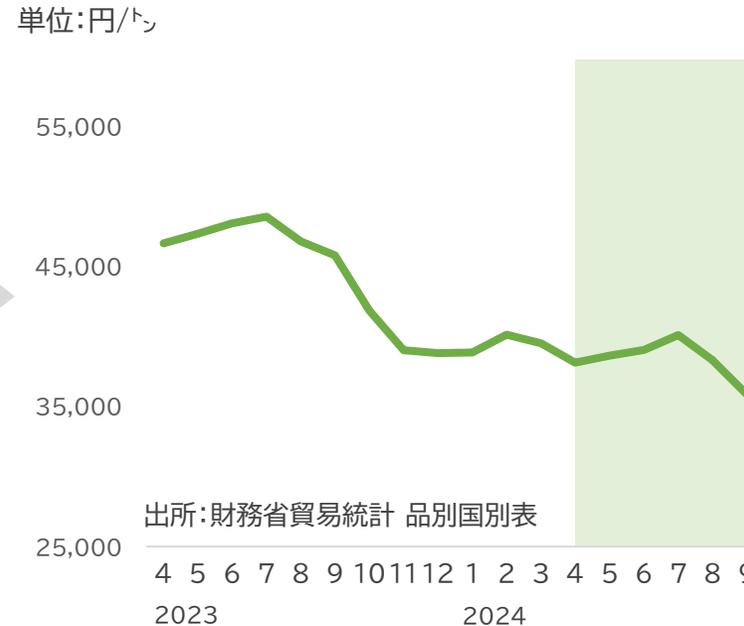
※今年度よりセグメントを変更 旧)飼料・食品・その他 → 新)畜産飼料・水産飼料・食品・その他
 ※セグメント利益:経常利益ベース
 ※EBITDA:経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

主原料であるとうもろこしのシカゴ相場は軟調に推移。第2四半期は値上げとなったが、販売価格は前年同期比で低下

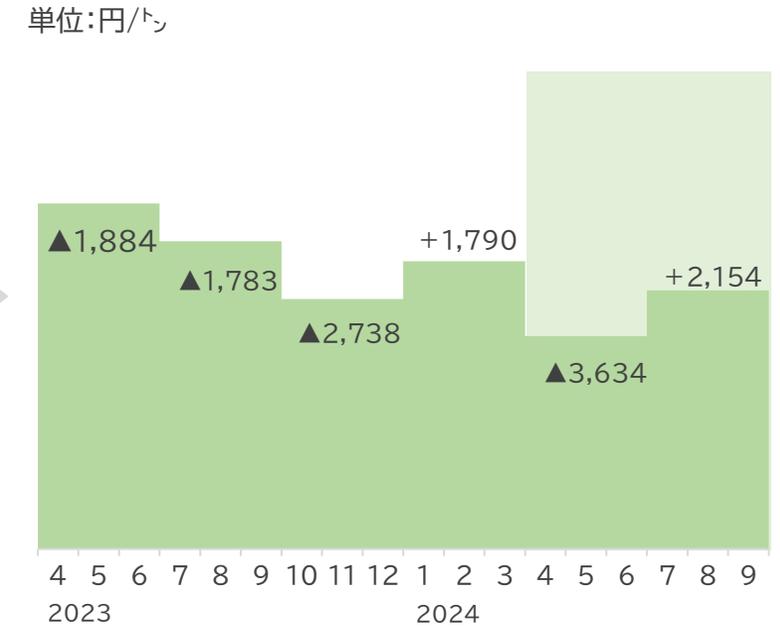
為替／とうもろこしのシカゴ相場



とうもろこし輸入価格



畜産飼料販売価格



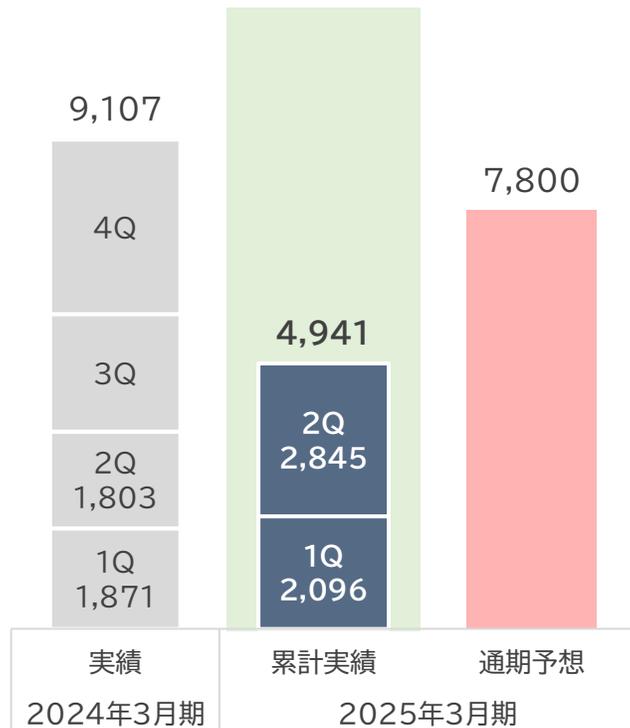
- 為替は米国の利下げ観測と日銀の利上げ観測を受け円高が進行
- シカゴ相場は生産見通しが市場予測を上回り軟調に推移
- とうもろこしの輸入価格は前年同期を大きく下回り推移 (前年同期比▲17.7%)

- 畜産飼料販売価格は前年同期比▲6.6%

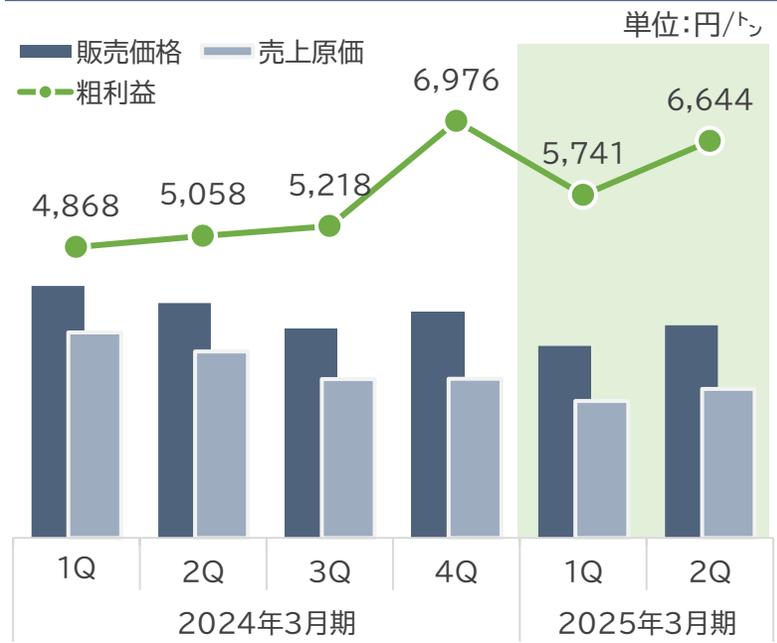
粗利益単価改善と販売数量増加によりセグメント利益は前年同期比+34.5%

セグメント利益
4,941百万円
進捗率 63%

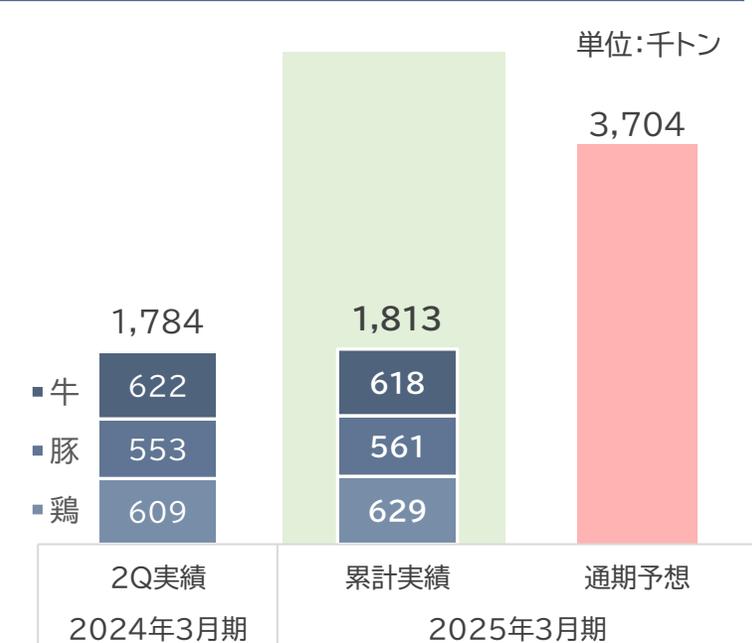
単位:百万円



トン当たり販売価格と売上原価の推移



畜種別販売数量



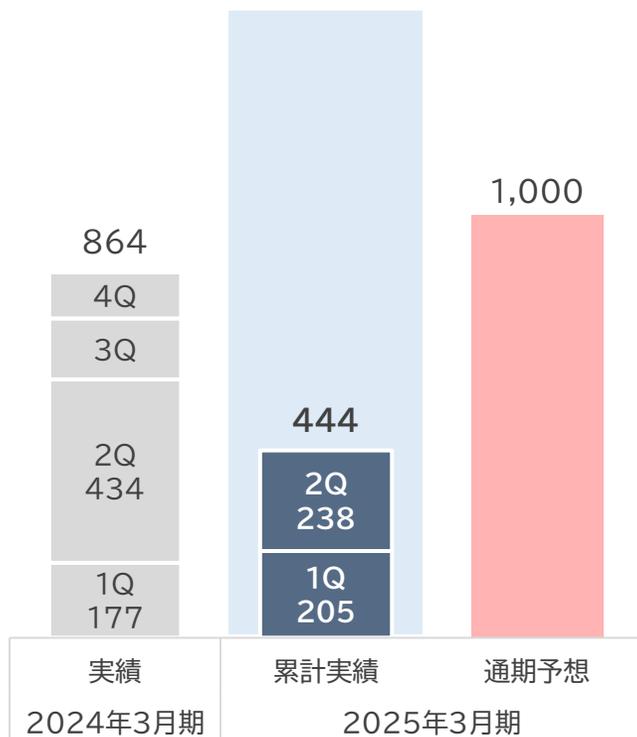
※販売数量の合計値は鶏・豚・牛を除いた販売数量も含まれております

- 有利原料の積極的活用や高利益製品の販売強化等により収益力が強化
- 販売数量は鳥インフルエンザや豚熱による影響からの回復により前年同期比+1.3% (参考)全国の畜産飼料販売数量は前年同期比+0.5% (当社調べ)

売上原価上昇に対する販売価格改定の遅れと販売数量減少により、セグメント利益は前年同期比▲27.3%

セグメント利益
444百万円
進捗率
44%

単位:百万円



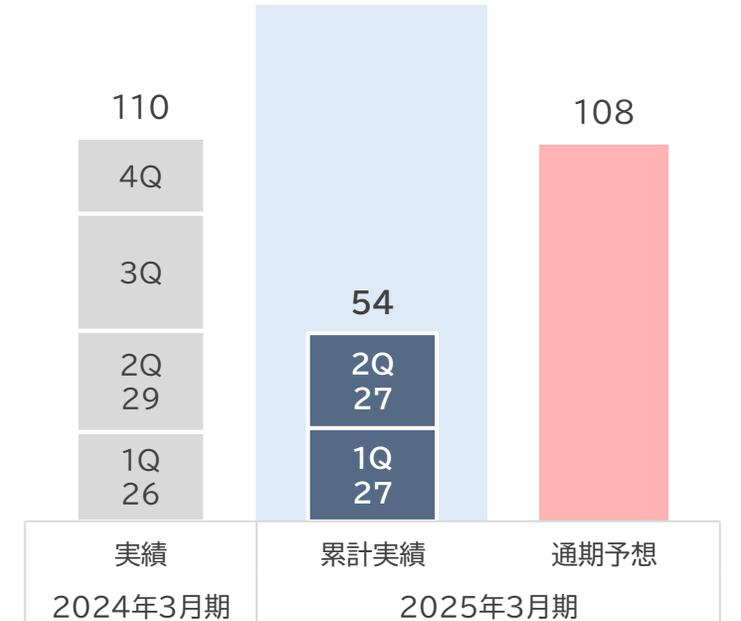
魚粉輸入価格

単位:円/ト



販売数量

単位:千トン



- 魚粉価格は前年同期比+7%となり売上原価が上昇も、販売価格改定が遅延。
- 販売数量はマダイ用で前年同期を上回るも海水温上昇等の影響を受け前年同期比▲1.3% (参考)全国の水産飼料生産数量は前年同期比▲2.0% (当社調べ)

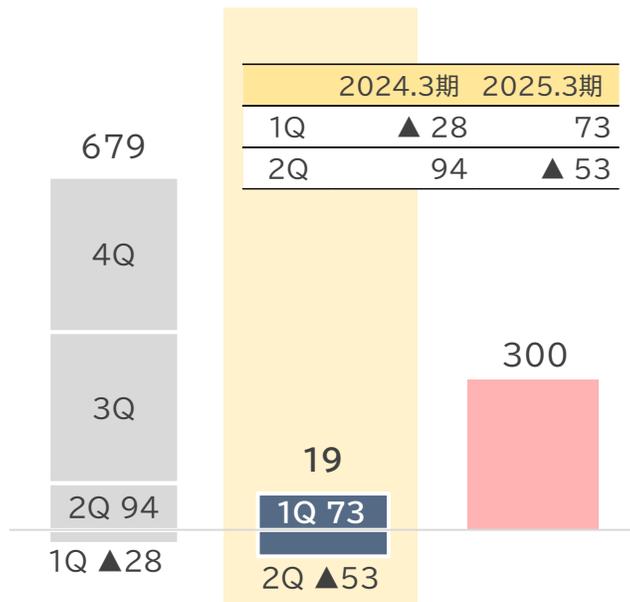
鶏卵部門の利幅減少と食肉部門の損失計上により、セグメント利益は前年同期比▲69.7%

セグメント利益

19百万円

進捗率
6%

単位:百万円



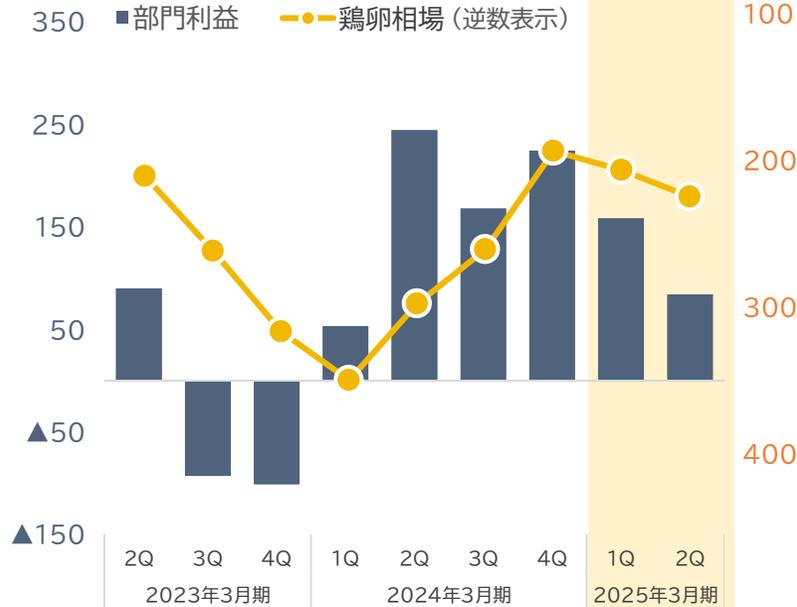
実績
2024年3月期

累計実績
2025年3月期

通期予想

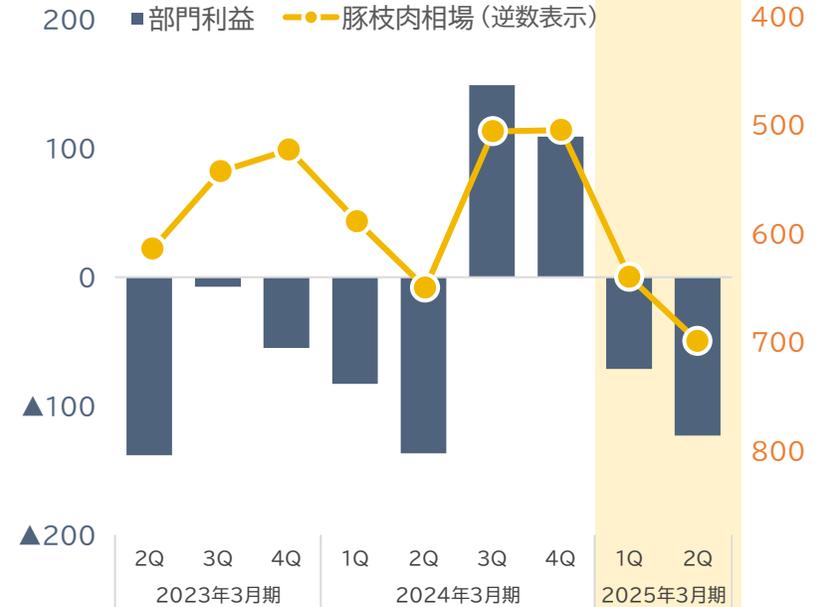
鶏卵部門:利益・鶏卵相場四半期推移

単位:百万円



食肉部門:利益・豚枝肉相場四半期推移

単位:百万円



- 鶏卵:暑熱影響等による供給量不足による仕入価格上昇から利幅が減少
- 食肉:暑熱影響等による出荷頭数減少から相場が急騰。販売価格の改定が遅れ、損失計上

下期業績見通を踏まえ、通期業績予想は変更しない

単位:百万円

	2024.3期	2025.3期		
		(2024年5月10日発表)	増減額	前期比
売上高	313,875	307,000	▲6,875	▲2.2%
売上原価	283,153	275,200	▲7,953	▲2.8%
売上総利益	30,721	31,800	+1,079	+3.5%
販管費	22,972	25,700	+2,728	+11.9%
営業利益	7,748	6,100	▲1,648	▲21.3%
経常利益	7,737	6,300	▲1,437	▲18.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,084	4,500	▲584	▲11.5%

下期
業績
見通

畜産飼料事業



3Qは価格改定に伴う競争激化に伴う収益悪化見通し
(4Qでの回復を見込む)

水産飼料事業



販売価格の値上げ浸透・原価低減により利益増加見通し

食品事業



3Q~4Qは相場下落による仕入コスト低下により利益回復見通し
一方で家畜伝染病リスクは継続

01_会社概要とコア事業の特徴

02_中間期決算概要

03_各事業の取組み

今後10年の目指す姿

Purpose 飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

Vision 「ONE」にこだわり選ばれる企業へ
を実現するために

経営目標

第3次中期経営計画
期間平均値

EBITDA	82億円
ROE	7.2%
ROIC	4.7%
経常利益	48億円
販売数量	369万トン

投資の実現と効果の発現を
成し得るための
基礎収益力向上期間

2027.3
の目標

EBITDA	115億円
ROE	8%
ROIC	6%
経常利益	70億円
販売数量	390万トン

2034.3
の目標

EBITDA	160億円以上
ROE	10%以上
ROIC	8%以上
販売数量	市場シェア 20%以上

成長ストーリー

第1フェーズ

16.3~24.3

~ひとつになって、未来へ
統合による事業基盤の確立

第2フェーズ

2025.3~2034.3

1st STAGE 25.3~27.3

2nd STAGE 28.3~30.3

3rd STAGE 31.3~33.3

第2フェーズ総投資額 約800億円 大規模投資の実現

2nd STAGEまでに600億円程度を実行

- 製造設備** 生産体制の再構築、CO₂排出量削減に向けた取り組み
- 人的資本** 人材育成や従業員エンゲイジメント向上に向けた、人的資本への投資
- 畜水産DX** DX推進による畜水産生産性向上、営業体制強化
- R&D** 環境配慮型飼料(メタンガス排出量低減、魚粉使用量低減飼料)の開発
- 海外** 海外の先端技術の国内導入、海外ビジネスの拡大

主な非財務指標

- CO₂排出量** 2030年度に2020年度比**50%削減**
- ダイバーシティ管理職比率** 2030年度に**15%**
- 男性育児休業取得率** 2026年度に**80%**

第1フェーズ(16.3~24.3)の軌跡

第1フェーズでは財務・非財務両面からの企業価値向上に努め、リーディングカンパニーの地位を確立

第1次中期経営計画 (2016.3-2018.3期)

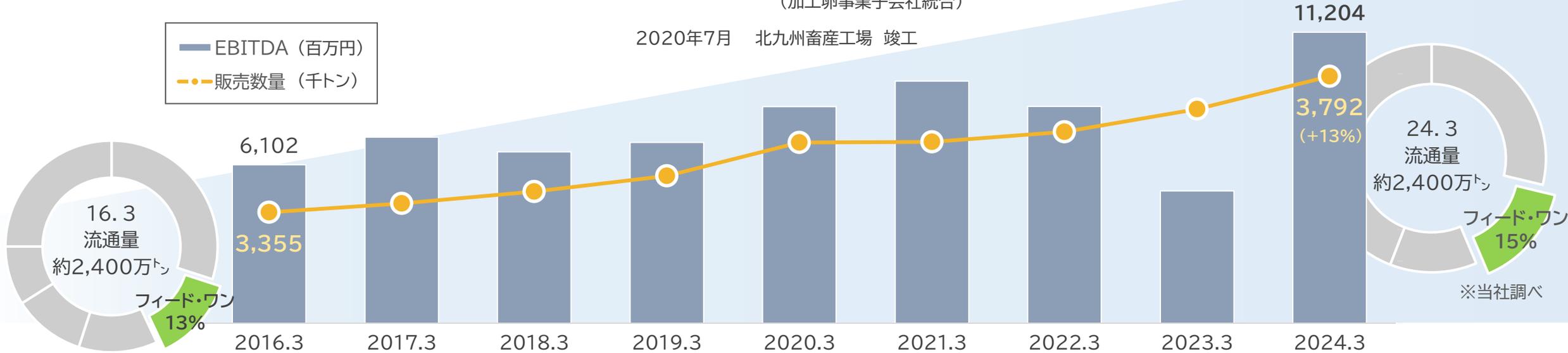
2016年3月 インド水産飼料工場 竣工
2017年4月 北九州水産工場 竣工

第2次中期経営計画 (2019.3-2021.3期)

2018年7月 フィード・ワンフーズ(株)設立
(食肉事業会社統合)
2020年4月 マジックパール(株)設立
(加工卵事業子会社統合)
2020年7月 北九州畜産工場 竣工

第3次中期経営計画 (2022.3-2024.3期)

2021年 北海道エリア飼料生産能力増強
第1フェーズ最終年度 過去最高益計上



自己資本比率(%)	32.6	38.3	37.8	40.5	42.3	42.6	40.8	35.0	38.4
DELシオ	1.02	0.59	0.53	0.38	0.55	0.49	0.49	0.80	0.63
1株当たり配当額	20.0	22.5	22.5	22.5	25.0	25.0	25.0	25.0	27.0
連結会社数	42	39	39	36	35	34	34	34	34
CO2排出量(t-CO2/年)						46,626	46,267	49,546	48,412

※2020年10月1日付けで普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施
※1株当たり配当額は株式併合後の金額に遡及して表示

第2フェーズ(25.3~34.3)の見通し

市場は横ばいで推移も、配合飼料メーカーの役割は多岐に渡るようになり一層提案力が求められる時代となる

日本の畜水産業の見通し

-  インバウンド需要増加や畜水産物輸出の活性化
-  高齢者を含む日本人の肉嗜好や陸上養殖の参入企業増加
-  日本の人口減少・少子高齢化に伴う需要減・農家戸数減少

➔ 配合飼料の流通量は横ばいでの推移を予測

配合飼料業界のリスクや課題

- 天候不順等に伴う飼料原料の供給不安・価格高騰
- 家畜伝染病や養殖環境悪化による動物の減少
- 飼料製造工場の老朽化の進行、資材高騰による建設コスト上昇
- 生産者の大規模化とそれに伴う顧客ニーズの高度化
- 技術のグローバル化やDX推進への対応

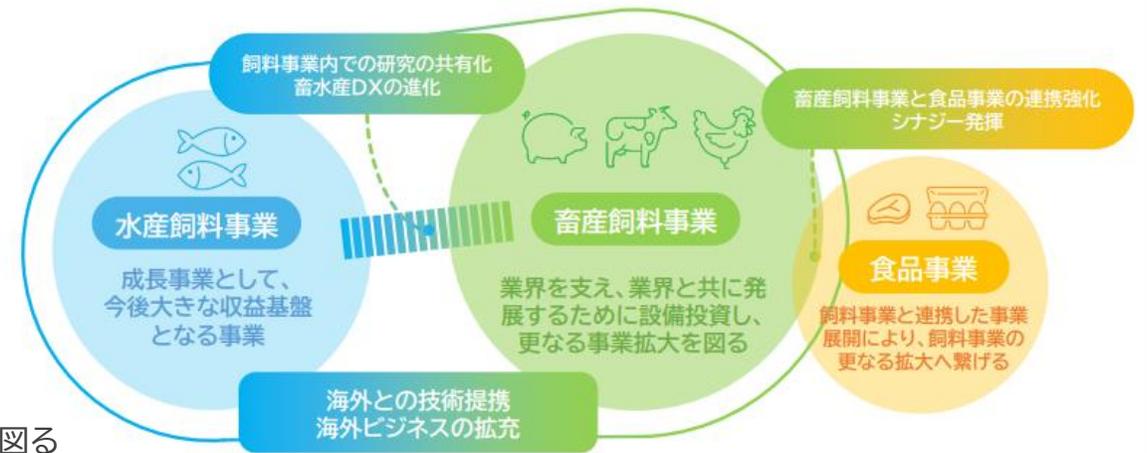
➔ 事業成長に向けた投資ができる会社が生き残る

フィード・ワングループの強みを活かした成長

- 民間企業No.1の飼料生産体制と強力な販売ネットワーク
- スケールメリットを活かした原料購買力
- 積極的な設備投資を行える財務基盤
- グローバルな知見も活かした研究開発体制の充実
- 畜水産物販売を通じた価値向上(ブランド化等)

過去10年を上回る成長を見込む

— 畜産飼料事業を中心とした事業間の連携を強化し、継続的な収益力強化を図る



顧客のニーズに沿った製品の開発・販売にくわえ、最新技術を積極的に取り入れていくことで独自の価値を創造する

ラインナップの充実

育種改良や、環境の変化に伴う
ニーズの多様化にいち早く対応

特許
出願中

『ワンアップ肉牛育成』発売開始

—理想的な素牛(生後6~12か月の子牛)を育成
することに特化した製品

『ノリノリポーク』国際養鶏養豚総合展2024で IPPS AWARD2024を受賞

—「発育」と「背脂肪蓄積」の両面を考慮した栄
養設計で薄脂対策をしつつ高い増体を維持

開発の背景

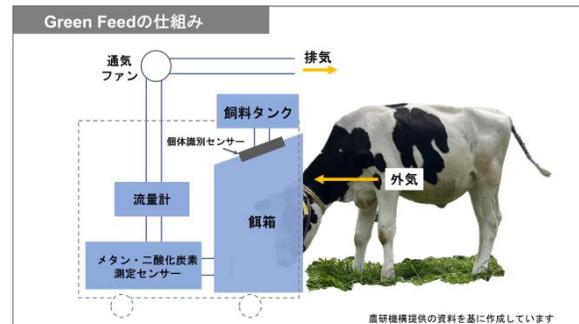
近年の養豚業界では品種改良の
進展により発育速度が高まる反面、
体への脂肪蓄積が少なくなってし
まい、肉の格付低下等のクレーム
が頻発するようになっていた



環境配慮型飼料の開発

牛呼気メタン測定機の測定精度
を実証し学会にて発表

牛呼気メタン測定機[GreenFeed]
を日本で初導入し、測定精度の調査結果
を「日本畜産学会第132回大会」で発表



配合飼料開発にはメタン計測の精度が
課題となっていた中で大きな進捗

他社との協業[DX推進]

P33

AIサービスの協業を開始

牛の起立困難※予防声かけ AI サービス
「BUJIDAS(ブジダス)」の販売パート
ナー契約を締結。10月より協業開始

ブジ、ダス



BUJIDAS(ブジダス)およびそのロゴは、NTTテクノクロスの商標です。



※牛の起立困難

→体内で異常発生したガスが横隔膜を圧迫することで、
呼吸困難・起立不能になる事故

モノ(飼料)売りだけでなくコト(技術)売りで畜産現場で価値を創造する

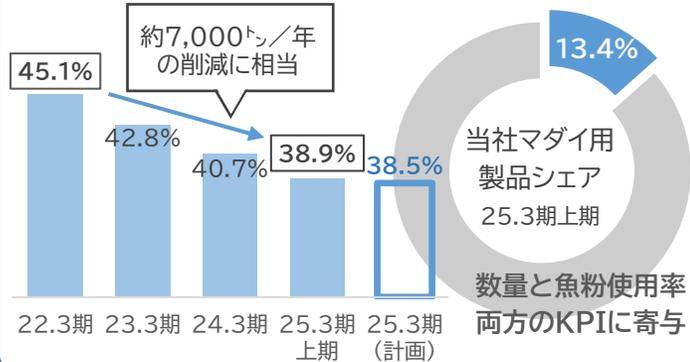
先進的な飼料の販売にくわえ、新規原料の採用・飼養技術の確立により、サステナブルな次世代養殖を造り上げる

先進的飼料の販売

無魚粉飼料「サステナZERO」
経営統合以来最大のヒット

上期販売数量は前年対比**172.5%**
(2023年8月より販売開始)

- ▶ 当社が販売するマダイ用製品のシェアNo.1に
- ▶ 魚粉使用率(全製品)は前年対比▲1.8%

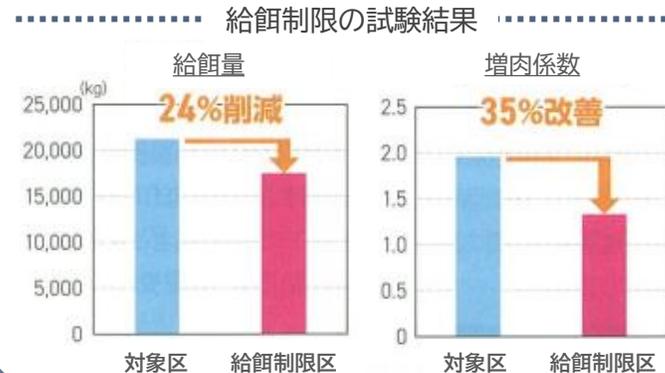


画期的技術の確立

『業界の噂を“確かな技術”に』
技術の確立による価値創造

「補償成長」技術の確立

- ▶ 一時的に給餌を制限することで成長促進や生産コストの低減を狙うもの
(ダイエット後のリバウンドのようなもの)

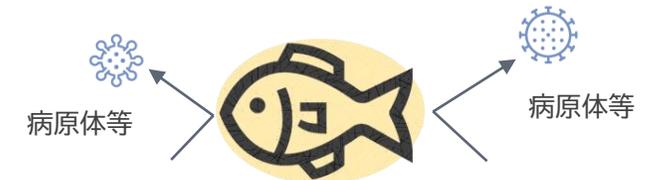


新原料の採用

昆虫タンパクで
養殖魚の生体バリア機能向上

特許
出願中

特殊製法の昆虫タンパクを配合した飼料を給与することで体表粘液が顕著に増加することを確認



体表粘液が増加(病原体から身を守るバリア機能)

新東亜交易(株)と共同で特許出願中

“常識”を疑い、多角的な視点をもって“新しい常識”を創造していく

相場変動に耐える販売スキームの構築を進め収益体制の確立を図る

豚肉部門

営業方法の再構築

豚枝肉価格の見通し

上期は暑熱の影響等による供給不足から未曾有の高値で推移したが、下期は供給不足が落ち着き、平年並みに落ち着く予測

相場に左右されない販売方法の確立

- ・相場に連動した仕入と販売の実施
- ・付加価値製品や差別化製品の拡売

▶冬場に需要の高まる内臓商材等の季節商材の拡売を進める



鶏卵部門

高まる鶏卵需要への対応

鶏卵価格の見通し

上期は鳥インフルエンザからの回復も暑熱の影響等による供給不足から相場は上伸
下期もクリスマスやおでん等による需要の高まりが予想され供給不安からの相場続伸懸念

品不足/需要増加に備えた 安定供給体制の確立

鶏卵は下期も供給と相場の動きに注意しながら需要の高まりに対応し販売数量の拡大を図る

積極投資の推進

マジックパール新工場建設順調

マジックパール株式会社 新工場建設中

-2025年3月完成予定

-生産能力150%を見込む



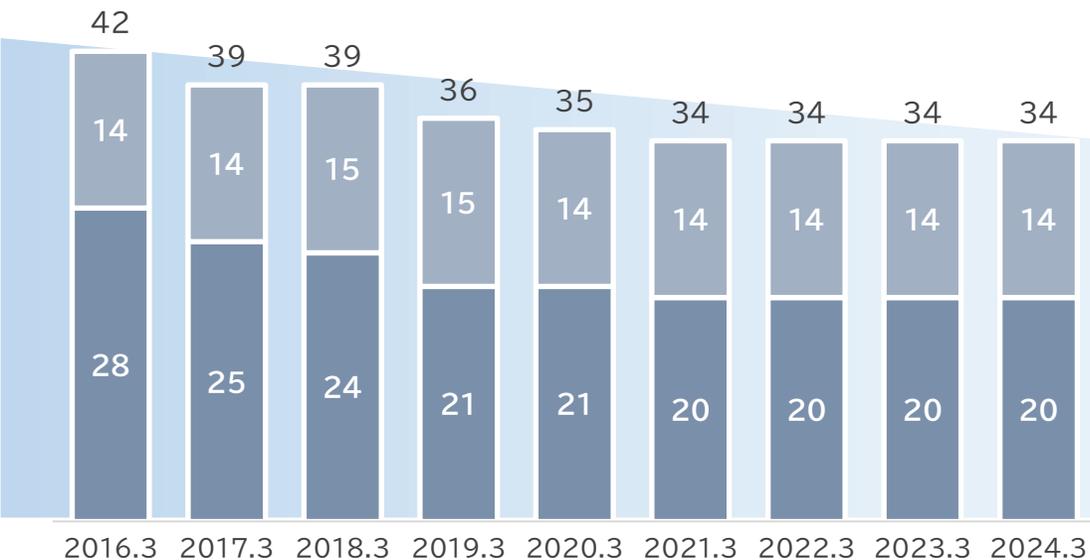
機会の獲得と、相場に左右されない商品や販売スキームの確立を図る

組織再編によりガバナンス強化、経営高度化・効率化を推進

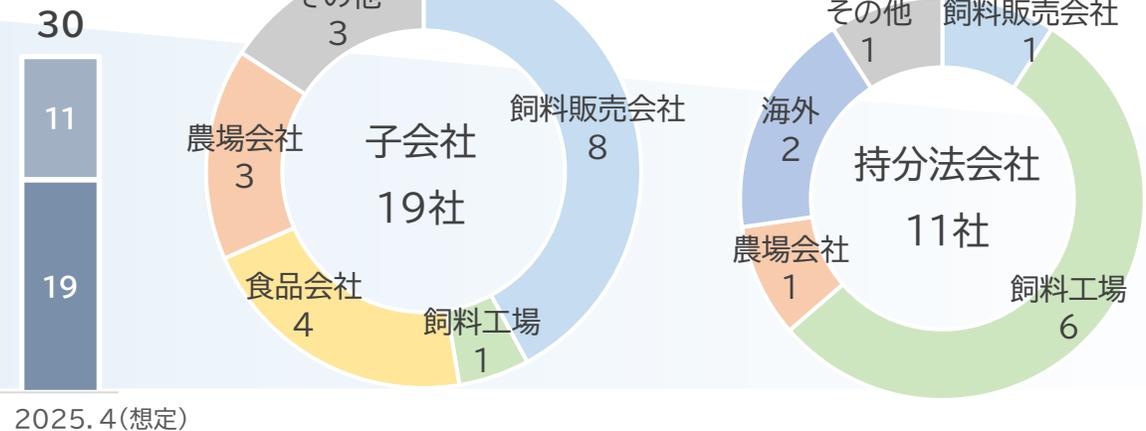
2025.3期の取組み

- 道北協同飼料販売(株)は事業との関連性を鑑み、株式を追加取得したことで持分法適用会社から子会社へ
- (有)東北グローイングは出資構成の見直しに伴い一部株式を売却したことで持分法適用範囲から除外
- 持分法適用会社の極洋フィードワンマリン(株)は10月をもって清算終了
- 完全子会社の苫小牧飼料(株)と東北飼料(株)を2025年4月に吸収合併へ

■ 子会社 ■ 持分法適用会社



2025.4想定



人材育成や人事制度改革をはじめとした様々な施策により従業員のエンゲージメントの向上に取り組む

従業員エンゲージメントの向上に向けた人事制度改革

2年連続賃上げ

- 物価高騰対策として2年合計で12%以上の賃上げ(非管理職)

ライフスタイルに合わせ居住地を選択できる制度

- 転居を伴う異動を担う従業員の待遇改善のため新設

従業員持株会における奨励金給付率の引き上げ

- 2023年10月より10%▶15%
- 正社員の約5割が持株会員

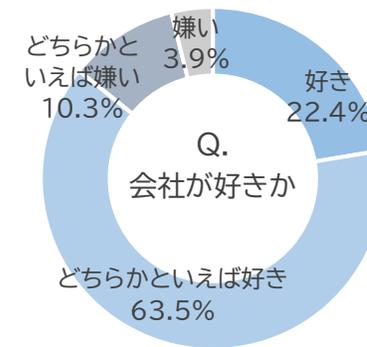
従業員の遺族となる配偶者の就労支援および子の支援

- 従業員のみならず家族も安心できる環境を整備する方針のもと見直し実施

従業員エンゲージメントの向上

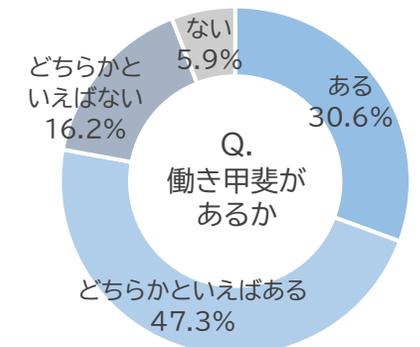
「自社が好きか」「働き続けたいか」「働き甲斐はあるか」

最大の財産である人材への積極投資を行い
生産性の向上を目指す



会社が好き・
どちらかといえば好き

85.9%



働き甲斐がある・
どちらかといえばある

77.9%

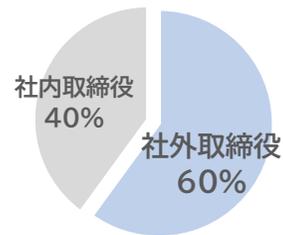
取締役会における中長期的課題解決に向けた議論および監督機能の強化(監査等委員会設置会社への移行)

監査等委員会設置会社への移行

監査等委員会設置会社へ移行(2024年6月21日)

・社外取締役 6名 / 社内取締役 4名へ

社外取締役を過半数以上としガバナンスを強化



目的

取締役会の監督機能の強化と経営の意思決定の迅速化を図る

実施策

取締役会の実効性を高める取組み

- ・取締役会の付議基準の見直し
- ・経営会議等重要な会議にオブザーバー参加
- ・社外取締役の工場等の現地視察
- ・実効性評価アンケートによるPDCAサイクル

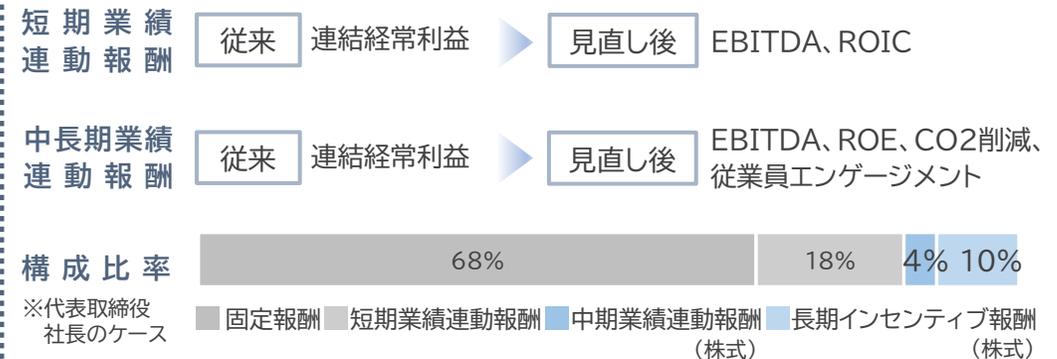
役員の業績連動報酬見直し

新たに業績連動報酬の指標に設定

・資本効率指標(EBITDA/ROE/ROIC)

・非財務指標(CO2削減/従業員エンゲージメント)

株式報酬比率を高め、企業価値向上への取組みを強化



方向性

長期ビジョン達成に必要な人材を確保・維持できる報酬水準へと設計(業績連動比率、指標等)

フィード・ワンは働きやすい職場づくりや地域のイベントに積極的に参加し、社会との共生を目指す

健康管理対策強化への取組み



- ▶ 牛乳専用冷蔵庫を設置
従業員が自由に飲むことができ、牛乳の消費拡大推進とともに、健康経営にも寄与
- ▶ スマートミール認証の仕出し弁当
「スマートミール」とは健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事のことで健康へのアプローチに寄与

北海道マラソン2024



- ▶ 北海道マラソン2024
本社だけでなく、支店でも地域のイベントに積極的に参加
北海道マラソンでは給水エリアを担当しランナーを支援

特別授業の開催



- ▶ テーマ「持続可能な水産資源の活用」
従業員が水産資源に関する課題や当社の取組みについて説明
- ▶ 生徒とともに考察
後日、生徒がその後各自調査した内容をまとめてレポートを発表

こども参観日 @鹿島地区

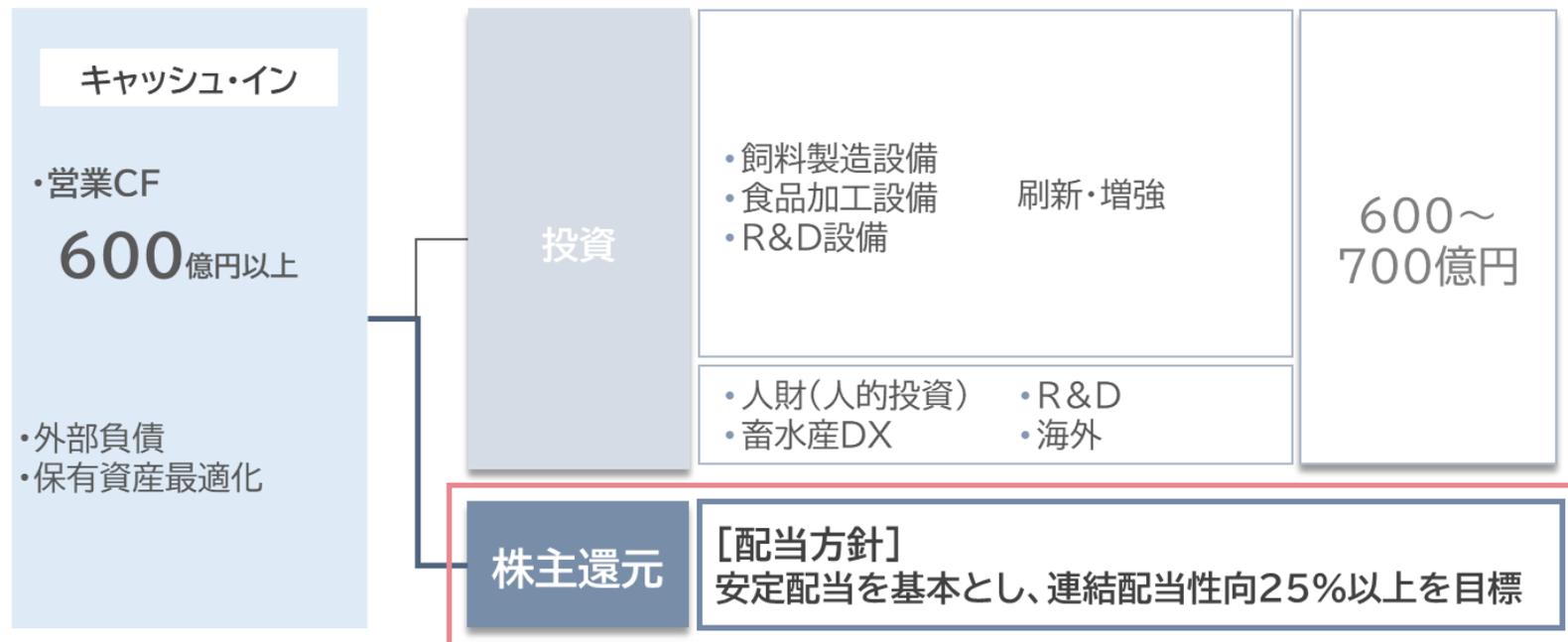


- ▶ 一日工場長体験
従業員の子ども達が一日工場長となり、工場見学や名刺交換などを体験
- ▶ 調理実習
畜産物を使用し、サンドイッチ等を調理

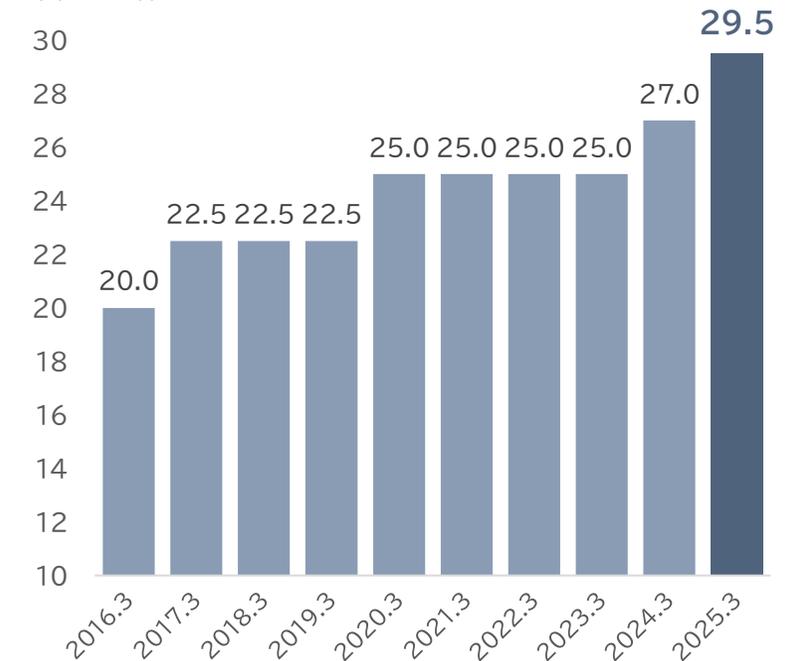
投資が大幅に増加する環境においても、安定した配当の継続と段階的な増配を目指す

配当予想の修正

目標とする連結配当性向25%以上の方針のもと、年間配当予想を1株当たり29.5円に修正するもの



単位:円/株



Appendix

最新のAIを活用した肥育牛における起立困難の予防策

肉牛業界を取り巻く課題

牛は、足を投げ出して寝ている横臥(おうが)の姿勢を続けると、気道が確保できず、餌の消化により体内で発生したガスをげっぷで排出することができなくなる

たまったガスで胃腸が圧迫された状態が長く続くと、死に至る可能性がある

肥育牛の起立困難による死亡事故は年間1~2%程度発生するといわれ、1頭あたりの損害額は100万円以上にのぼることから大きな課題

現状では事故を防ぐために牛舎の見回り等で対応している生産者も多く、夜間の牛舎巡回は肉体的にも精神的にも負担が大きい



BUJIDASの機能(※)

人工知能(AI)による映像分析で牛が横臥の姿勢を20分間続けていることを検知すると、カメラから自動で音声流す



8カ年の財務データ

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
経営成績 (百万円)								
売上高	207,920	207,562	212,886	215,050	214,120	243,202	307,911	313,875
売上原価	182,917	183,629	189,757	191,401	192,163	220,490	285,218	283,153
販売費及び一般管理費	20,171	20,225	19,005	18,234	16,284	18,418	21,270	22,972
営業利益	4,831	3,706	4,123	5,414	5,672	4,293	1,422	7,748
経常利益	5,131	4,103	4,466	5,737	6,081	5,067	1,711	7,737
親会社株主に帰属する当期純利益	3,937	2,971	4,657	3,842	4,438	3,659	1,030	5,084
総資産	79,904	87,082	88,934	90,880	99,251	108,504	127,913	131,038
純資産	30,968	33,304	36,413	38,906	42,794	44,840	45,314	50,856
設備投資額	5,033	6,448	3,811	7,934	8,120	2,659	2,103	2,755
減価償却費	1,855	2,370	2,395	2,513	3,157	3,198	3,235	3,291
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,777	9,199	4,842	1,127	7,737	2,740	△7,816	11,138
投資活動によるキャッシュ・フロー	△891	△7,454	△158	△7,475	△5,989	△952	△1,187	△2,168
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,373	△1,330	△4,937	6,512	△1,550	△1,174	12,881	△5,474
現金及び現金同等物の期末残高	2,333	2,748	2,492	2,657	2,830	3,444	7,322	10,817
1株当たり情報 (円)								
1株当たり当期純利益 ^{※1}	19.98	15.08	23.66	97.64	112.78	94.65	27.01	132.97
1株当たり配当額	4.50	4.50	4.50	5.00	15.00 ^{※2}	25.00	25.00	27.00
1株当たり純資産 ^{※1}	155.20	166.86	182.90	977.82	1,074.63	1,161.40	1,172.57	1,314.03
財務指標 (%)								
売上高営業利益率	2.3	1.8	1.9	2.5	2.6	1.8	0.5	2.5
売上高当期純利益率	1.9	1.4	2.2	1.8	2.1	1.5	0.3	1.6
自己資本利益率 (ROE)	13.7	9.4	13.5	10.3	11.0	8.5	2.3	10.7
総資産経常利益率 (ROA)	6.3	4.9	5.1	6.4	6.4	4.9	1.4	6.0
自己資本比率	38.3	37.8	40.5	42.3	42.6	40.8	35.0	38.4

- ※1 当社は、2020年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2020年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を算定しております。
- ※2 2021年3月期の1株当たり配当額15.00円は、中間配当額2.50円と期末配当額12.50円の合計となります。2020年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っておりますので、中間配当額は株式併合前の配当額(株式併合を考慮した場合は12.50円)、期末配当額12.50円は株式併合後の配当額となります。(株式併合を考慮した場合の1株当たり年間配当額は25.00円となります。)
- ※3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2024年9月30日時点の連結対象会社は以下の通り

子会社 21社

● 飼料販売会社

北海道フィードワン販売(株)
道北協同飼料販売(株)
八戸フィードワン販売(株)
岩手フィードワン販売(株)
鹿島フィードワン販売(株)
東海フィードワン販売(株)
北九州フィードワン販売(株)
南九州フィードワン販売(株)

● 飼料製造会社

苫小牧飼料(株)
東北飼料(株)
志布志飼料(株)

● 食品会社

マジックパール(株)
フィード・ワンフーズ(株)
(株)横浜ミート
ゴールドエッグ(株)

● 農場会社

(有)グリーンファームソーゴ
(株)第一原種農場
(株)南部ファーム

● その他

空知管理サービス(株)
(有)いわき中央牧場
南洋漁業(株)

持分法適用会社 12社

● 飼料販売会社

(株)北海道サンフーズ

● 飼料製造会社

釧路飼料(株)
仙台飼料(株)
鹿島飼料(株)
平成飼料(株)
八代飼料(株)
マルイ飼料(株)

● 農場会社

(株)美保野パーク

● 海外

KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED
NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED

● その他

門司港サイロ(株)
極洋フィードワンマリン(株)

* 道北協同飼料販売(株)は事業との関連性を鑑み、株式を追加取得したことで持分法適用会社から子会社へ
* (有)東北グローイングは出資構成の見直しに伴い一部株式を売却したことで持分法適用範囲から除外
* 極洋フィードワンマリン(株)は10月をもって清算終了

2025年3月期 IRカレンダー

第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	● 通期決算発表			● 第1四半期決算発表			● 第2四半期決算発表			● 第3四半期決算発表	
		● 有価証券報告書					● 半期報告書				
	● 通期決算及び 中期経営計画 説明会	● 株主総会					● 決算説明会				
					● 中間配当 基準日						● 期末配当 基準日
5/10	2024年3月期 通期決算発表		8/9	2025年3月期 第1四半期決算発表		11/8	2025年3月期 中間期決算発表		2/6	2025年3月期 第3四半期決算発表	
5/21	2024年3月期 通期決算及び 中期経営計画説明会					11/19	2025年3月期 中間期決算説明会				
6/21	第10期定時株主総会 2024年3月期 有価証券報告書										

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛 (ir@feed-one.co.jp)にご連絡ください。

